

## ちょっとつぶれたコッペパン

「六ヶ所の給食はとっても良いですよ！」と3月に同僚に送り出され、早（はや）1年が経とうとしています。噂にたがわず六ヶ所村の給食はとても美味しく、メニューも豊富。ガパオミートというタイ料理やタコライス（沖縄発祥？）など生まれて初めて食べるメニューも出てきました。時には煮干し醤油ラーメンや豚骨醤油ラーメンも出たこともあり、給食だけで全国はおろか世界中の食べ物が堪能できます。また、デザートも豊富で、果物やヨーグルト・ゼリーなど、1週間に最低1度は出てきます。12月にはフルーツ強化週間なるものが六ヶ所南小学校児童の提案で採用され、その週はリンゴ・オレンジ・パイナップル・クリスマスケーキ（最後は果物ではありませんが・・・）と続けました。栄養バランスや食材などに気を配り、毎日の献立を考え、子ども達の生の声を聴き、メニューに取り入れる栄養教諭や栄養士の方々、調理や配送に携わる給食センターの方々に感謝しかありません。お陰様で私自身以前より栄養が行き届きふくよかになりつつあり、デザートを食べる時はいったん躊躇（ちゅうちょ）しますが、「ギルティ」と心で叫んで完食します。

今のふくよかな体型からは想像できないと思いますが、小学校時代は病弱で、いったん風邪でも引けば少なくとも1週間は学校を休んでいました。小学2年には約半年間、県立中央病院（青森市）に入院していたこともあります。

その当時、学校を休んでいれば、近くの級友が学校で出た給食のパンやジャム、ミルク（粉）・デザートやプリントを持って毎日のように家を訪ねて来てくれました。持ってきてくれた友達と、一言ふた言学校や友達の事を話すそのひと時がとても嬉しく、「早く良くなって学校に行きたい」と思っていたのを思い出します。

現在は給食の持ち帰りは禁じられ、残ったものは原則給食センターに戻すことになっています。賞味期限や食中毒、異物混入等の観点からすれば仕方がない事なのかなと思います。また、子どもが下校途中によそ様の家に立ち寄るのは、核家族化した家庭事情、防犯・安全面を考えた時、今の世の中では厳しいかなと思ったりもします。

でも、病弱だったあの頃、友達がランドセルから出した、ちょっとつぶれて固くなったコッペパンは学校（学級）と私との懸け橋でもあり、今でも忘れられない給食の味なのです。

藤川俊彦（2月14日更新）